

博

四年

画数 12
筆順

扌 博 博
ハク・ハク

成り立ち



↓ 博 ↓ 博 ↓ 博 ↓ 博 ↓ 博

「田に『苗』をうえる形」を表した『専』と、「一から十まで『すべて』の意味の『十』」とを組み合わせて作った字です。

「すべての田に『ひろく』苗をうえつけること」を表した字で、「物事が『ひろく』行きわたる」という意味に使われています。【例】博愛、博学、博識、博聞。

「博」の『専』は、『専』(年 935)という字と同じように見えますが、右上に『』があります。字のなりたちがちがいが、意味がちがうので、くべつするためしるしだと考えてください。

使い方

▽ぼくの先生は、とても博識です。いろいろな事を実によく知っていて、いつも感心してしまいます。
▽東京で開かれている博覧会を見に行きました。いろいろな展示品やもおしものなどがあって、興味をひかれました。

熟語例

▽博愛(ひろく人々を愛すること。「彼は博愛主義者だ」などというふうには、つかいません。)

▽博学(ひろく学問に関する知識があること。「あの人は博学多識で、えらいものだ」などというふうには、つかいません。)

▽博識(ひろく、よくものを知っていること。)

▽博聞(ひろく、ものごとを聞いて知っていること。)

○さんは博聞強記で、まるで知らないことはないようだ」などというふうには、つかいません。「強記」は「強い記憶」のことで、よく覚えていいることです。)

▽博覧会(いろいろな産物や品物を展示して、ひろく一般の人々に見てもらい、物を売ったり、技術の改良のきっかけにしたりする会)

飯

四年

画数 12
筆順

飠 飯
めし

成り立ち



↓ 飯 ↓ 飯 ↓ 飯 ↓ 飯 ↓ 飯

「反復(くりかえすこと)」という意味の『反』(年 398)と、『食事』の意味の『食』(年 166)とを組み合わせて作った字です。

「毎日三度三度反復をして食べている」ものである『はん(めし)』を表した字です。

「反」という字のついた字はたくさんあります。

坂(年 399)、板(年 400)、版(年 800)などはみな『ハン』という音ですが、返(年 417)だけは、『ヘン』という音です。

使い方

▽わたしの誕生日には、おかあさんは、お赤飯をたいてくれます。わたしはお赤飯よりふつうの御飯の方が好きなのですが、せつかくおかあさんが手間をかけてたいてくれるお赤飯なので、よろこんで食べることにしています。

▽わが家の炊飯器は、旧式です。新しい電子ジャーにしようよ、と言ってみたのですが、おかあさんは、「使えるうちに買いかえるなんて、もったいない」といって、古い炊飯器を使っています。

熟語例

▽赤飯(おめでたいことがあった時にたいて食べる、あずきを入れて作った御飯)

▽炊飯(御飯をたたくこと。「電気炊飯器」などというふうには、つかいません。)

▽残飯(食べ残りの御飯。「残飯を犬にやったら、喜んで食べた」などというふうには、つかいません。)

▽噴飯(おかしいこと。おかしくて、食べかけていた御飯を吹き出してしまうほどだ、という意味でつかいます。「あれは噴飯ものの事件だった」など)